

全久院報

松本市深志 3-7-50 電話 0263-36-3211

あけましておめでとうございます

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。昨年もコロナ感染症に振り回された一年となってしまいました。世界中が影響を

受けて活動が縮小しました。全久院も法事、寺の事業などすべてが中止や縮小を余儀なくされました。昨年末は感染症も収まり、明るい兆しが見え始めましたが、新たなオミクロン株蔓延が懸念されるようになりました。皆様も健康に留意され、この状況を克服しましょう。

さて、本年の全久院ですが、いよいよ本堂庫裡の耐震化工事を進める節目の年となります。昨年は耐震化のために、精密な耐震診断を行ってきました。その結果を得て全体的な工事内容を検討してきました。まだまだ具体的な計画までには至っていませんが、今年中に詳細な検討に入ります。総代の皆さんで建設委員会を結成し、皆さんの知識を結集して計画立案を進めてまいります。本年もよろしくお願いいたします。

本堂・庫裡耐震化工事計画

全久院の歴史 全久院は松本城最後の殿様、戸田家の菩提寺でした。明治時代になると戸田家は徳川の譜代大名であったため、不安定な立場になりました。

全久院の廃寺 維新政府に従うことを表明するため、政府の発令した廃仏毀釈令に従い、明治4年菩提寺の全久院を廃寺としました。その後戸田様は隣県の高山市と松本市を合わせて出来上がった筑摩県の知事となりました。

開智小学校となる 廃寺となった全久院の伽藍をそのまま使い、仏具や書類など女鳥羽川に捨てもやし、建物内を整理して、開智学校とし寺子屋教育が始まりました。学校令が発令されると、それを解体して木材を再利用して全久院の跡地に開智小学校を作ったのです。全国に先駆けて小学校が運営され始めたことが、信州は教育県と言われる一因となったと思います。

全久院の復興に困難 廃仏毀釈が全国的な動きにならないことが分かり、大本山総持寺の禪師様、梅崖奕堂大和尚の名をお借りし、全久院再建の為、廃寺となっていた瑞松寺の跡地を筑摩県より買い上げました。しかし、全久院の名をもつての復興は許可が降りず、同じく廃寺となっていた、大町の青柳寺として明治11年寺を開きました。

全久院の復興 青柳寺は明治29年火災により焼失、全久院二世再興開闢玉翁達淳大和尚により明治33年本堂・庫裡が完成しました。その棟上げ式が前号に掲載した写真です。明治31年には寺号を全久院とする許可が下り、全久院の復興が完成しました。これを機に**松本平の仏教寺院の再建が進みました**。浄土真宗の寺以外の寺がすべて廃寺となった後、その復興に全久院が果たした役割はこのよ



うに大きなものでした。

左の写真は大正9年頃のもので、現在は草木が植えられたり、灯籠が立っていたりしますが、銀杏の木があるだけで、玄関も飾り気がなく、曹洞宗寺院の典型的なすっきりした伽藍となっていました。本堂や庫裡は現在と同じものです。再建なった全久院の伽藍がどうであったか偲ぶことが出来ます。

しかし建立されて120年が過ぎ、数年前の震度5の松本地震では本堂の壁が落ち、本堂を支える柱が傾きました。これから予想される南海トラフ地震などに耐えるための、耐震化などの全面改修が必要となりました。「全久院報」でも数年前から耐震化工事の必要性をお伝えして来ましたが、いよいよ腰を据えて計画を進める時期に来たと思います。

工事の概要は

- 1、本堂・開山堂の地盤補強・耐震改修工事
- 2、庫裡の地盤補強・耐震改修・減築工事・再生工事。
- 3、離れの再生工事
- 4、工事期間は10年、順次工事を進めます。
- 5、この工事を副住職の晋山式記念事業とする。

と考えています。右の写真は昭和41年先住俊勝大和尚晋山式の時のものです。明治33年の竣工当時の建物に玄関を着け、ひさしを伸ばしてあります。また現在は庫裡を3階建てにして居住空間としています。現在の建物のままでは法律にのっとった耐震診断もできない状態です。耐震化するためには減築して竣工当時のように2階建ての庫裡に戻さなくてはなりません。



工事の内容を詰めて工事費がどのくらいかかるか見積もりを上げてもらっていますが、寺全体の**新築工事**とすると約**8億円**かかるということです。工事の技術が上がり、現在ある建物や木材などをそのまま再利用しての再生工事とすると、**新築予算の4分の1**程の見積もりになるのではないかとのことです。詳細はもう半年ほどかけて詰めてまいります。

コロナ禍で経済が落ち込んでいるさなか、この計画を進めなくてはならないことは苦渋の決断であり、また檀信徒の皆様のご協力を頂かないと進めることのできない事業です。総代の皆様のご意見をいただきながら、事業の詳細を詰め、檀信徒の皆様にご意見頂戴してまいりたいと存じます。よろしくお願いいたします。

コロナ感染症に対応する法事や葬儀の仕方

前号でコロナ感染症がどのように法事などを変えたかのお知らせをしました。昨年11月には急激に感染者数が減り

法事後の飲食や飲酒をしたいという檀家様も増えてきました。

しかし、再びオミクロン株が世界中の国々に感染拡大し始めました。そこでもう一度、コロナ感染症への対応を確認したいと存じます。長野県の**感染警戒レベル3以上**になった時は特に注意いただきたいと思います。

法事 3密にならないように人数を絞って集まり、感染拡大している都会の親戚などは呼ばず、読経や焼香をして、飲食は弁当にして持ち帰るか、時間を短くして会食する。

葬儀 やはり3密にならないように、が基本です。

- 1, 参加者 少人数で遠隔地の方は呼ぶ場合は配慮が必要。
- 2, 飲食・飲酒 弁当をお渡しするか、短時間で会食する。
全久院はお酒を飲まないと言事にならない、と古くから親しくお付き合いさせていただいている檀家様がほとんどです。1周忌や3回忌は飲食を共にしますが、葬儀の蔡は控えておきましょう、とおっしゃる方、いや、短時間で切り上げるので、という方もいらっしゃいます。皆で最善の方法を創り出してゆきましょう。
- 3, 会場 少人数ですので、自宅やお寺をお勧めします。駐車場も庭など30台以上止めることができますのでご心配なく。お寺は檀家の皆様に作っていただいた建物ですので、**会場費はいただきません**。もちろん設備の整った葬儀社のホールでとお考えの方もいらっしゃいますが、設備の良い分だけ経費もかかります。いろいろお考えいただきながら、最善の方法をお選びください。
- 4, 費用 会葬者もほとんどなしというケースが大半ですから、葬儀費用はほとんど自分で支払わなくてはなりません。食費やお返しのお物などの費用を別にすると、役所への届け出や火葬費用、葬儀に必要な基本的な物品の費用は20～30万円程です。後は式場をどこにするかです。

檀信徒の皆様のご要望を聞きながら、進めてまいりますので、前もってお寺と相談しておくことをお勧めします。

全久院の集い

坐禅会 ・ ・ 六十六則「九峰頭尾（きゅうほうずび）」 ・ ・

曹洞宗の座禅のテキストと言われる「従容録」六十六則に黄檗宗を開いた黄檗希運（800年頃の中国の人）と、ある僧との問答があります。二人で歩いていると目の前に川があり渡れない。すると僧が「笠を船にして渡ります」。黄檗「お前は羅漢だ、羅漢と知ったら足をたたき折ってやるのであった」僧「これはこれ大乘の法器なり」という問答が出てきます。笠を船にして渡っても仏法ではない。ただ奇跡を起こす小神通で、大神通ではない。それを説いた黄檗に対して、僧は真の仏教の法門を悟られた方が黄檗だ！と讃嘆したのです。

またある僧が、九峰和尚に「頭とは何ですか？尾とは何ですか？」と問うた問答がこの章になります。頭、つまり上の方に向かって悟りを求め研究したり行を積んだりすること。尾、つまり下に目を向け、苦しんでいる人、一緒に修行している人々を照らし、人々の中に入って苦楽を共にしながら真実の生き方を伝えること。前者を向上門（こうじょうもん）と言ひ、後者を向下門（こうげもん）と言ひます。さら向下門は苦楽や現実の生き方を極めて行くので、一つ一つの事柄を指し示す「事」と称され、向上門は一つ一つの事象の奥にあり事象を統括する法則を追求するところから「理」と称されます。向上と向下、理と事のどちらに偏っても円満しません。一方を知っただけの話です。禅では一方だけを向いている人を「担板漢（たんばんかん）」と言ひます。背中に板を背負っていると一方だけしか見えません。向上と向下、理と事の両方を兼ね備え、どちらか一方に偏らない、その修行の有り様を求めるのが「九峰頭尾」です。

神通を発揮するだけでは単なる小神通。その上には大神通があります。向上と向下、理と事、どちらにも偏らず一瞬一瞬をひたすら生きてゆく。これが大神通です。毎日同じことをしているだけじゃないか？いいえ違います！一回しか起こらない奇跡はただの偶然。何百回、何千回、何万回と同じ一日が巡ってきます。毎日毎日同じ一日が続く、これが本当の奇跡、神通です。最近SNSで沢山の問題が起きて人々を悩ませています。一方的にものを言って、他の人を踏みにじ

ってゆく生き方が横行しています。それは皆「担板漢」。向上向下・理事併存する生き方が現在問われていると思います。

ご詠歌の会 ご詠歌の会に平成30年より参加して下さった吉川紗綾香さんより原稿をいただきましたので掲載します。本年4月に初めてのご詠歌の検定を受け、教導に合格しました。写真の右の方が吉川さんです。

「この度、御詠歌の「教導」のお免状をいただきました。私にとって初めての検定です。教導とは十ある教階の一番下の級を表すものです。やさしい響きに惹かれて習い始めた梅花流御詠歌は、月に一度、東昌寺の恵道先生にご指導を受け、今年で4年目になります。最初は、ひとつの歌をお唱えするのに、法具やお作法があることも全く知らず、何もかもが新しい世界でした。



元々おじいちゃんおばあちゃん子だった私は、幼い頃から、祖父母に連れられて、色々な場所へ出掛けました。信仰深い祖父母と一緒に、お寺の行事にも数多く参加しました。そんな中でも、特に印象深いのは、お唱えの時間です。目の前に広がる光景は、ひんやりとした薄暗いお堂、金箔が施された祭壇にゆらゆらと灯るろうそく、丁寧に並べられた供物、お寺全体を纏うお線香の香り、優雅に活けられた花。その空気の中で袈裟をきりりと纏う大人たち、美しく揃い繋がれたお数珠、それを手に祈る姿。集まった方達が、ご住職について一斉に声を出し、一生懸命にお唱えする姿は厳かで、幼い私には異世界にいるような感覚でした。リンゴ農家を営んでいた祖父母のその様子は、日常では見られない真摯な面持ちで、凛々しくとても素敵で誇らしく思えました。また、その後の食事の時間では、それぞれのお膳を前に、にこやかに談笑する表情はとても穏やかでした。雰囲気も賑やかで楽しいものになり、幼い私にとって大好きで楽しみな時間でした。

私が御詠歌に魅せられたのは、幼少期に祖父母と紡いだ大切な思い出と重なっていることも関係していると思います。お稽古の、法具を解くところから始まる動きは、ひとつひとつが丁寧に、日常にはない緊張感が走ります。皆で一斉にお唱えに向かう時、心がそこで重なり合い、ひとつの空気変わります。いよいよ皆で声を合わせる瞬間に、楽しいわくわくした気持ちも生まれます。

梅花講のメンバーの皆様は、私が始めて見学に行ったその日から今まで、とてもお優しく、親身になってくださりました。人生の大先輩の皆様が存在が、私にどんなに力をくださっているかわかりません。とてもありがたく思っています。御檀家としての法要、検定や大会のご経験も多く、今回の初めての検定でも、細やかなアドバイスや励ましで勇気づけてくださいました。未熟な私にいつも丁寧に接して下さり、御詠歌だけではなく様々なことを学ばせてくださいます。このコロナ禍で、しばらくの間、皆様と一緒に稽古をすることが出来なかったことは残念でしたが、検定までは、恵道先生に個別のお稽古をお願いしたり、YouTube や梅花講のサイトを見たりしながら家で練習する日々が続きました。余談ですが、動画を検索しているうちに自分の母親の御和賛の発表会動画を見つけるといふ、思いがけない発見もありました。

検定の課題曲は二曲あり、毎日自宅でも口ずさんでおりましたら、ある日娘の口からお題の一つである「三宝御和賛」が聞こえてきてびっくりする、という出来事がありました。また、私の趣味の一つはバイクに乗ることなのですが、山の景色を見ながらのツーリング中に、自宅での練

習の時と同じように、自然に口から出てきた時は、思わず笑顔になってしまいました。御詠歌とバイクは似ても似つかない世界ですが、それくらい自分自身に馴染んだんだなあ嬉しくもなりました。

御詠歌の時間は、大好きな祖父母を想い、先生方や仲間の皆様と共に過ごす大切なひとときです。日常は小学生・中学生・高校生の3人の子育てに追われ騒然としたものですが、お稽古の度に、所作や優しい音色、美しい詞に襟を正し、清々しい気持ちになれることがとてもありがたいです。そのあとの皆様とくつろぐお茶の時間は、また格別です。

人と人の距離が遠くなった今、ひとつの歌を通して心を結ぶことが出来る御詠歌を、より大切に感じています。いただいた有難いご縁に感謝し、これからも梅花講御詠歌を続けていこうと思います。」

以上の原稿をいただきました。私にとってご詠歌は両親が忙しくて、幼い頃私たち兄弟を寝かしつけてくれたのが祖母でした。子守歌は吉川さんが思わず口ずさんだ「三宝御和賛」でした。「心の闇を照らします・・・、」と祖母が耳元で歌ってくれました。そんな思いと吉川さんの文章が重なりました。素晴らしい原稿、吉川さんありがとうございました。

宗務所長の務め

宗務所長の任期は4年です。その3年が過ぎました。コロナ感染症以前はほとんどの事業が当然のように計画どおり、対面で行われてきましたが、感染症以後多くの事業が中止になり、対面での会議も中止となりました。令和3年の11月より感染数が激減し、事業も再開しました。右の写真は東京の宗務庁での、全国所長会議の様です。全国に66の宗務所があり、66人の所長がいます。東京、芝、に曹洞宗が経営する東京グランドホテルがあり、その中の宗務庁大会議室で開催されました。写真にスクリーンが映っていますが、リモート参加と対面参加による、ハイブリッドと言われる会議形態となっています。宗務所でも役員会や宗務所会はリモートで行うことが多くなりました。ズームという会議用のパソコンソフト名をお聞きになっていると思います。私も何とかズーム会議に参加できるまでに勉強を重ねました。宗務所には布教師会（布教の仕方を研修する会）や法式研究会（儀式の仕方を研修する会）など、いくつかの会がありますが、これらの会の研修や打ち合わせは、ほとんどズームによるパソコン上の会になりました。お寺の奥様達の会もほとんどがリモートで行われるようになりました。この2～3年で大きく寺を取り巻く環境も変わりました。

なお全国宗務所長会では近年



多発する自然災害に対する「災害援護規程」について話し合われました。本宗務所にも災害救援基金があり、被災した寺院の復興に供されています。少しずつですがコロナ感染症から立ち上がり、通常の業務へと復帰しています。これ以上オミクロン株が広まらないといいですね。

また、吉川さんの手記にもありましたが、宗務所の業務の一つにご詠歌の検定があります。中信地域は全久院で30人程、南信の北部は箕輪の養泰寺様で120人程、南部は泰阜村の真浄寺様で40人程の参加者があります。上伊那地域が盛んなようです。前頁の下の写真の真ん中が私です。所長が検定員の長と決められていますので、私の方が冷や汗をかきかき、検定を受ける講員さんよりドキドキして可否を判定しました。しかし実は、隣の庵主様にお聞きしながらの綱渡り、ハラハラ、ドキドキでした。

茶道コーナー

昨年は茶道もコロナ感染症の影響を受けて、稽古ができなくなりました。茶碗一つでの茶を飲み回すのが作法になっているので、感染源となってしまいます。家元から細かい感染症対策のマニュアルが出されました。一例をあげます。茶碗・茶巾・茶杓は自分のものを持参、茶を点てたら自分で飲み、他の方には飲ませない、道具を洗うとペーパータオルで拭き、布巾を使い回して拭かない、他の人が触った道具は触らない、などなど。しかし茶を点てることは茶道の一部に過ぎず、深い稽古は全くできないでいます。稽古をする者にとっていたたまれない時を過ごしています。

そんな中で松本市内の日本語学校の留学生が、日本文化体験と言うことで稽古場を訪れてくれました。コロナ感染症のため入国ができなかった学生が少しずつ日本国内に入ってきているとのこと。今回は10人の学生と5人の学校関係者が参加されました。

私が一番伝えたかったのは、「日本的な方法は、まず文化や伝統や生活を学びながら、何年も稽古を続けて体に覚えこませ、自然に、考えることなしに体が動いて、茶を点てることです。形を整えることに気を使わなくなると、心は自由になれます。点前の順番に気を取られることがなくなると、道具を使う自分から、清い心、静かな心、無の心が醸し出されます。」このように皆さんに伝えました。最後に茶筌を振って、皆さんにお茶を点ててもらい、点てた茶を飲んでもらいました。留学生から「皆さんに点ててもらって飲んだ茶は美味しいのに、自分で点てた茶は苦いです。どうして？」と聞かれました。そのように気付いてもらったのが第一歩。一度だけの体験で理解できるものではありません。日本語を体得して、日本の心を理解してもらえたらと思います。



最後に茶筌を振って、皆さんにお茶を点ててもらい、点てた茶を飲んでもらいました。留学生から「皆さんに点ててもらって飲んだ茶は美味しいのに、自分で点てた茶は苦いです。どうして？」と聞かれました。そのように気付いてもらったのが第一歩。一度だけの体験で理解できるものではありません。日本語を体得して、日本の心を理解してもらえたらと思います。

大黒コーナー

ドニゼッティ作曲 オペラ 『愛の妙薬』公演 練習を開始しました

2023年4月あるいは5月連休中の日曜日の公演を目指して、練習を開始しました。このオペラの初演は1832年5月12日、ミラノ、カノッピアーナ劇場でした。インチキ薬売りが「愛の妙薬」と称して売る安ワインをめぐって繰り広げられる喜歌劇は多くの聴衆を魅了してきました。

あらすじをご紹介します。若くて村一番の美人のアディーナは、お金持ちの農園管理人であり教養もある。これまでも多くの男性に言い寄られてきたが軽くあしらって相手にしてこなかった。ところが、同じ村の若者で教養がなく貧しくいつもダラシノない格好をしているネモリーノが、よりによってこのアディーナに恋をしてしまったから大変。人の良いことだけが取り柄のネモリーノは何とか彼女の愛を得たいと思うのだが、いつも馬鹿にされるばかりである。

ドニゼッティのオペラ・ブッフアの代表作。牧歌的な純朴さを、底抜けの明るさをもつ喜劇だが、ちょっぴりセンチメンタルでホロリとさせるような面も持つ逸品。〈愛の妙薬〉とは、実は単なる安ワインなのだが、それを〈妙薬〉と信じ込んで飲んだ若者ネモリーノが、やっとのことで大好きなアディーナの愛を得、結果的には〈妙薬〉の力で、恋人と結ばれる。

この喜劇をドニゼッティの有名なアリアが繋いでゆきます。ぜひ皆様ご期待ください。また、オペラ公演の合唱メンバーを募集します。体を使った発声練習から始まりイタリア語の発音、歌い方をしっかりと追及しながら、楽しい雰囲気練習していきます。練習が進むにつれ、劇、ダンス、衣装、舞台、オーケストラなどの担当の方々が次第に加わり、スケールを大きくしながら本番に向かって準備を進めます。本番を迎えるまでの過程を、一緒に楽しみましょう。初心者、経験者問わず、興味のある方は、大歓迎です。なおステージには乗らないが、練習のみ希望の方も立ち稽古直前まで、ご参加可能です。練習日程は、来年の1月から月に2回。主に日曜日の13:00~15:00です。参加費用は公演までの練習に37,000円、他必要経費として楽譜代、衣装代等実費が掛かります。ご参加お待ちしております。

掲示板 (皆様のご参加お待ちしております)

下記の予定は変更される場合もありますので、参加の際は日時を寺に確認の上お越しく下さい

・・・ 檀信徒護持会新年総会 ・・・

1月22日(土) 4時より全久院で開催します。今年はコロナ感染症に対応するために各部の発表などは中止、茶道部による茶室での薄茶など中止します。4時より護持会総会となり、皆さまから頂戴している護持会費の会計報告、本堂など耐震化工事計画を進めることの承認を議題と致します。4時40分より本堂にてお参り、終わって皆さまにお弁当をお配りして感染症予防のためお開きと致します。なお、マスク着用、熱のある方は出席しない、などの対応をお願いいたします。参加希望の方は1月15日(土)までに電話などでご連絡ください。

・・・ 観音講 ・・・

毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様にお勤め、10時30分からご詠歌、11時から大黒の指導で唱歌の合唱、11時30分より大黒手作りの野菜中心の食事という日程です。現在15人ほどの参加者がいます。気寄りが良く60代から80代の方が元気に集まって来ます。住職の役職の都合で日程の変更がありますので電話などで日程の確認をお願いします。なお食事代で500円お願いします。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

・・・ 座禅会 ・・・

2月19日(土)・3月19日(土)・4月23日(土)・5月21日(土)・6月18日(土)・7月16日(土)以上が上半期の日程です。基本的には第3土曜日夕方4時集合、4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。座禅を経験していただきながら、混迷する現代、自分を見失ってしまいそうな日々を、もう一度自分の時間を取り戻して、ものの見方や生き方をゆっくり考えてみるのが是非必要と思います。そんな時間に身をおいてみませんか。青山老師をお呼びしての講演会をするための積立金1000円をお願いします。

．．． **ご詠歌の会** ．．．

2月9日(水)・3月8日(火)・4月13日(水)・5月11日(水)・6月8日(水)・7月13日(水)・9月9日(水)

第2水曜日、午前10時半より12時まで、白板 東昌寺住職 飯島恵道師にご指導いただきます。ご詠歌の検定を受けたり、ご詠歌の全国大会や県大会、全久院のお盆法要、新年会、和合会の花祭りなどに参加したりお楽しみもいろいろあります。上記の日に突然来ていただいても結構です。一緒にいかがですか。なお参加費用1回2000円をお願いいたします。

．．． **歌の会「花かんざし」** ．．．

2月2日(水)・2月16日(水)・3月2日(火)・3月16日(水)・3月30日(水)・4月6日(水)・4月21日(水)・5月18日(水)・6月2日(水)・6月1日(水)・6月15日(水)・6月29日(水)・7月6日(水)・7月20日(水)・8月3日(水) 第1・第3水曜日に開催します。大黒の指導で、童謡・唱歌・流行歌・名曲を練習します。期日は基本的には毎月の第1、第3水曜日です。発声練習の成果で高い声が出せるようになったと好評です。時間は10時から12時。会費は1回1000円、途中10分ほどのティータイムがあります。ご希望の方は全久院まで連絡ください。上記の日程には変更する場合がありますので、お越しの際にはあらかじめ電話等で確認ください。

．．． **ホームページもご覧ください** ．．．

<https://zenkyuin.or.jp/>